

令和2年3月5日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

<b>標 題</b>	<p>認定新規就農者2名が共同組織「合同会社<sup>もとやま</sup>本山農産」を創立！！</p> <p>～地域農業の担い手を目指して、“二人三脚”！！～</p>
------------	---

(ダイジェスト)

2月14日、関係機関が企画し、「合同会社本山農産」創立激励会を盛大に開催しました。当法人は、益田市の認定新規就農者T氏、O氏がそれぞれ個別に経営している水稲部門を法人化し、お互いの経営の合理化を図ることを目的に2月3日(月)に法人登記が完了し、創立されました【経営面積：水稲12ha】。

今後は、二人三脚(水稲を共同経営に、園芸は個別経営)で地域農業の担い手としての活躍が期待されます。

益田市の認定新規就農者であるT氏(水稲6ha+露地園芸)、O氏(水稲6ha+施設園芸)はそれぞれ個別に複合経営を行っており、地域の担い手の高齢化などから、両氏が請け負う耕作面積(水稲)は年々増えている状況にありました。

同じ課題を抱えている中、高校の同級生というつながりもあり、3年前から水稲機械の共同利用や労働力の相互補完などを行い、お互いの経営に足りないものを「結」の精神で補い合ってきました。

しかしながら、今後の受託面積の増加や機械更新など見据える中、ひと(労働力)、もの(水稲機械)、かね(会計)の共同化による経営の合理化を模索し、昨年6月から本格的にお互いの水稲部門のあり方について検討を重ねてきました。

益田市農業担い手支援センターは、農地や機械の台帳整理、営農計画、機械更新計画などの作成を支援し、併せて、県農業経営相談所を活用した法人化検討会を2回開催してきました。

お互い持続的な農業経営を目指して、様々な検討、話し合いの末、県内でも珍しい形態での法人化に至りました。創立激励会でT氏は「お互いの足を繋いでいるのが水稲部門、タッグを組み、二人三脚で持続的な農業経営を目指したい。」と熱い決意表明をしました。

普及部は、今後も当法人の早期経営安定に向けて技術、経営両面からサポートしていきます。

